

令和8年産

大豆情報 (Vol.1)

令和8年8月3日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



6月以降の気象経過

○6月の平均気温は平年より1.7℃低く、日照時間は平年比85%と少なく、6月19日から21日にかけて合計98.5mmの降雨がありました。東北南部は、平年より8日遅く6/20に梅雨入りしました。

○7月上中旬の平均気温は平年より0.9℃低く、日照時間は平年並(平年比104%)で、12日に74.5mm、25日から26日にかけて合計121mmの降雨がありました。

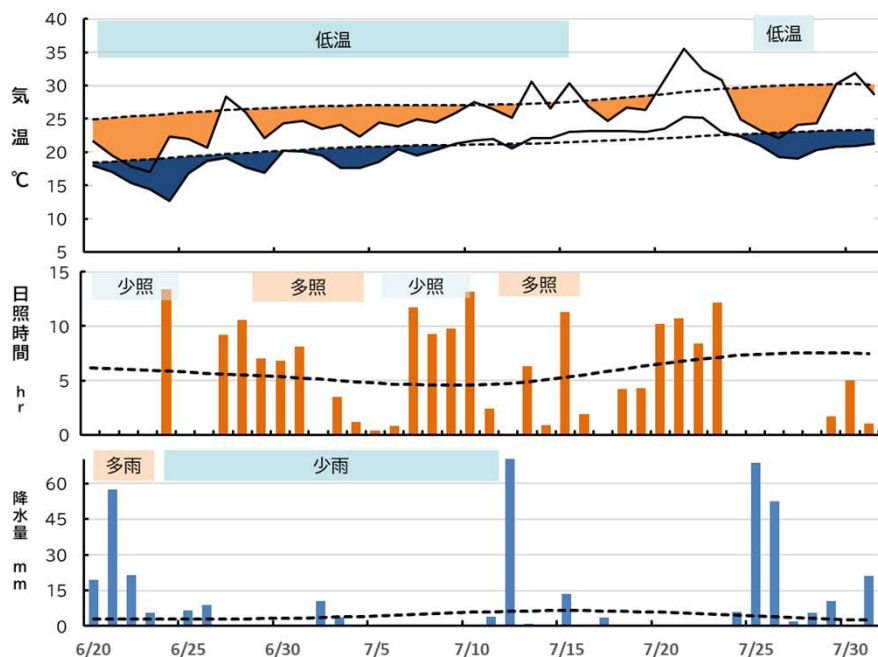


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温、中:日照時間、下:降水量

※点線は平年値(前5か年平均)

生育調査結果(7月24日)

表1 生育調査結果(7月24日調査)

品種	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			主茎長(c m)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)			分枝数(本/m ²)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ	須江 (河南)	6/11	-5	-3	26.3	-31.1	-22.3	9.2	-2.2	-2.6	0.2	-1.5	-1.1	2.6	-18.8	-15.5
すずみのり	蛇田 (石巻)	7/01	+24	-	19.3	-24.0	-	4.8	-5.8	-	0.0	-0.8	-	0.0	-10.5	-
ミヤギシロメ	小船越 (河北)	6/12	-5	-6	32.9	+2.2	-0.6	8.5	-0.8	+0.7	0.3	-1.5	-0.3	3.5	-10.2	-3.0
ミヤギシロメ	大曲 (矢本)	6/17	-15	-	23.3	+1.5	-	8.3	+0.7	-	1.1	+0.9	-	13.0	+10.4	-

※1 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

※2 蛇田すずみのり、大曲ミヤギシロメは令和7年産から調査開始のため、平年差はない。



○タンレイ: 播種時期は平年より3日早く、主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年を下回っています。

○すずみのり: 播種時期は前年より24日遅く、主茎長、主茎節数、分枝数ともに前年を下回っています。

○ミヤギシロメ: 河北では、播種時期が平年より6日早く、主茎長と主茎節数は平年並ですが、分枝数は平年より少なくなっています。矢本では、播種時期が前年より15日早く、主茎長、主茎節数、分枝数ともに前年を上回っています。

◆病害虫対策

◎開花期前

- ・食葉性害虫(チョウ目幼虫：ツメクサガ、ウコンノメイガ、オオタバコガ、コガネムシ類)
ほ場をよく確認し、ツメクサガなどの食葉性害虫を発見した場合には、早期の
薬剤防除を実施してください。



(写真:H27年 石巻農業改良普及センター)



(写真:R7年 石巻農業改良普及センター)



(写真:R7年 石巻農業改良普及センター)



(写真:H25年 石巻農業改良普及センター)



(写真:みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針)

・ハダニ

今年も高温傾向が予測されているため、ハダニの発生にも気を付けましょう。

◎開花期

開花期は、「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」です。
開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、
正確に判断しましょう。

開花期の把握がずれると紫斑病の適期防除の時期もずれ
防除の効果が**低下**します

◎開花期後

・紫斑病

降雨が多く収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特に**タンレイで多発しやすい**のでタンレイは**開花期後20～40日に2回防除**しましょう(同一系統の剤の使用は避ける)。

・食葉性害虫

開花期後(特に莢伸長期～子実肥大期)に食害を受けると減収することがあるので、食害葉面積率20%(右下写真)を目安に防除しましょう。



食害葉面積率20%

(図: JAIいのまき 麦・大豆栽培技術マニュアル)

・子実害虫(マメシンクイガ、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤムシガ、カメムシ等)

☆マメシンクイガ

連作ほ場で多発します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。

☆フタスジヒメハムシ

生育初期の葉の食害に加え、若莢の表面を食害し、そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行いましょう。

☆ダイズサヤムシガ

若齢幼虫が大豆の生長点付近の新葉をつづり合わせて食害しているとき(右写真)に防除しましょう。



☆吸実性カメムシ類

(写真: H27年 石巻農業改良普及センター)

大豆の子実を吸汁し、子実の変形・変色を引き起こします。今年の吸実性カメムシ類の発生量は**やや多い**と予測されているので、子実肥大期(9月頃)に防除を行いましょう。

・アブラムシ類

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し、多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

発生のピークは、8月下旬から9月上旬ですが、葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右)葉の裏を確認し、発生が多いときには薬剤が葉の裏までかかるよう、丁寧に防除を行いましょう。

また、モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



(写真: H27年 石巻農業改良普及センター)

※主な病虫害防除薬剤は、「麦・大豆栽培技術マニュアル」(令和8年3月、編集・発行:いのまき農業協同組合、監修:宮城県石巻農業改良普及センター)の70ページを参照してください。

◆湿害対策

◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

排水溝は詰まっていないか



明きよに停滞水が溜まっていないか



◆高温乾燥対策

◎ほ場内の水分を維持

大豆は開花期以降、多量の水を必要とし、不足すると落花・落きょうにより減収するので、晴天が7日以上続き、土壌が白く乾燥し、日中の葉の半分以上が反転している場合には、暗きよの水甲を閉じて水分保持(地下かんがい)するなどの対策が有効です。

※湿害回避のため、降雨が予想される場合は水甲を開けましょう。

◎畝間かん水

排水性が良いほ場では、畝間かん水が可能です。播種前にサブソイラをかけ、水尻までの水の通り道を作ることなどが有効です。晴天が10日以上続く場合、土壌表面に染み出す程度が目安です。

※水が停滞すると湿害を助長するため、かん水は短時間で行いましょう。

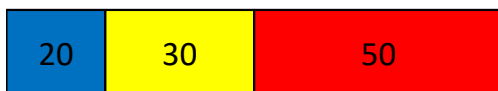
※大区画ほ場の場合は数日に分けて行いましょう。

1か月予報 (8/1～8/31)

仙台管区气象台 7月30日発表

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

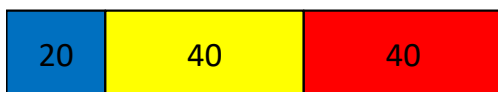
【気温】



【降水量】



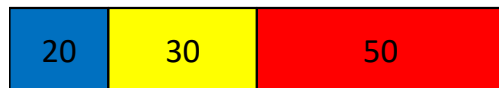
【日照時間】



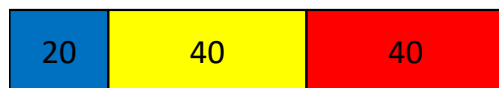
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

○週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目



2週目



3～4週目



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月1日(土)～ 8月31日(月)

1週目 : 8月1日(土)～ 8月7日(金)

2週目 : 8月8日(土)～ 8月14日(金)

3～4週目 : 8月15日(土)～ 8月31日(月)